

# スモモ(花螺李)栽培ごよみ

平成29年1月作成

計画的な改植と適期管理で、元気なスモモ園を復活させよう。

摘果の徹底(3月~4月)で大玉果実を生産しよう。

月	旬	生育相	栽培管理		病虫害防除		管理・防除記録欄	
			作業項目	実施方法	病虫害名	農薬および使用濃度	月日	薬剤、濃度、使用量等
1	上中下	休眠期	整枝 せん定	黒斑病罹病枝の除去を行う。	カイガラムシ類 (1月萌芽前まで)	スプレーオイル (マシン油97%) 30倍		
2	上中下	萌芽期 開花期 展葉期 落弁期	液肥の葉面散布	展葉期に、尿素500倍の葉面散布を4~5日おきに3回実施する。	黒斑病	アグリマイシン-100 1,500倍		
3	上中下	新梢 実期	摘果	開花30日後から摘果を開始する。 1果そうに1果残し、果実肥大を促進する。	カイガラムシ類幼虫	アプロード水和剤 1,000倍		
4	上中下	肥 伸 大 期	摘果 草生管理 鳥害対策 仕上げ摘果	小玉、病害果、傷果を摘果する。 草生管理を徹底する。 鳥害を防ぐため、防鳥網を効果的に利用し、対策を行う。 最終摘果は開花70日後までに終える	シンクイムシ類 アブラムシ類	フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍		
5	上中下		新梢管理	伸ばすべき新梢以外の直立枝は捻枝、摘心を行い、徒長枝は除去する。				
6	上中下	收穫期	收穫 出荷 施肥 改植準備	收穫は7分着色で收穫し、家庭選果を徹底して厳選出荷する。 夏肥の施用 改植予定園は、伐採・伐根し緑肥を播種				
7	上中下	花芽 分化期	夏季せん定 草生管理	枝の混んでいるところは徒長枝を軽く間引きせん定する。 草生園は刈り取り、敷草をする。				
8	上中下	新梢 新長期	樹勢回復 期	台風対策 台風に備えて支柱の準備と、排水溝の整備、土壌流出対策を行う。	黒斑病	アグリマイシン-100 1,500倍		
9			改植準備	改植予定園は、緑肥をすき込み整地				
10	上中下		土壌改良	苦土石灰の施用 (アルカリ土壌では施用しない) 堆肥施用、深耕を行い土壌改良する。				
11	上中下		施肥 防風垣整備	秋肥の施用 高く伸びた防風垣を切り下げる。				
12	上中下	落葉 休眠期	施肥 間伐 改植 整枝せん定	秋肥の施用 密植園は間伐を行い、果実品質向上と作業の効率化を図る。 徒長枝や交差枝は除去、開心自然形の樹形に整える。 切り口には癒合促進のためトップジンMペーストを塗布する。				

施肥基準 (10a当たり)

時期	6月 (夏肥 収穫直後) 燐硝安加里 (S-226)	11月上旬 (秋肥 1回目)	12月上旬 (秋肥 2回目)
肥料名		奄美果樹配合 (8-8-5) または 蜜のめぐみ2号 (8-3-3)	奄美果樹配合 (8-8-5) または 蜜のめぐみ2号 (8-3-3)
収量			
500kg	20kg	50kg	50kg
1,000kg	20	60	60
1,500kg	40	70	70

農薬の溶かし方早見表 (薬量は%、gまたはcc)

水量	倍率 (単位)	30倍 (%)	500倍 (g, cc)	1,000倍 (g, cc)	1,500倍 (g, cc)	2,000倍 (g, cc)
500ℓ		16.6	1,000	500	333	250
300ℓ		10.0	600	300	200	150
200ℓ		6.6	400	200	133	100
100ℓ		3.3	200	100	67	50

農薬安全使用基準

対象病虫害	農薬名	倍数	使用時期 (収穫○日前 まで)	使用回数 (回以内)
黒斑病	アグリマイシン-100	1,500倍	30	2
黒斑病、かいよう病	ICボルドー412	30倍	-	-
アブラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	7	2
カイガラムシ類幼虫	アプロード水和剤	1,000倍	14	2
カイガラムシ類	スプレーオイル	20~50倍	発芽前	-
シンクイムシ類	ダースバンDF	3,000倍	14	2
	スカウトフロアブル	2,000倍	前日	3
	フェニックス顆粒水和剤	4,000倍	前日	2

※平成29年1月6日の登録内容を掲載したものである。

### 農薬の飛散防止対策について

- 隣接農作物の栽培者に対して、散布予定の農薬の種類や散布時期について事前に連絡する。
- 散布は無風または風が弱い時に行い、風向、散布ノズルの向きに注意する。
- 使用した農薬の名称、使用濃度、使用量、年月日、場所、対象作物を記帳する。